

R6_秋号のトピックス

暑さが年々厳しくなっていると感じる昨今ですが、今年は特別に暑かった気がします。外出を控え、オリンピック観戦など室内で過ごされた方も多いのではないのでしょうか。さて、西技環境ニュース R6_秋号では、下記トピックスをご紹介します。

- ✓ 生物たちのユニークな学名
- ✓ 環境部の主な業務内容（R6 年度）
- ✓ ヤマドリについて

稲穂が色付いてきました



生物たちのユニークな学名

生物には、私たちが普段から呼ぶ一般的な名称（和名）以外に、世界共通の「学名」と呼ばれる学術的な名前がつけられており、私たち「ヒト」の学名は、ホモサピエンス（*Homo sapiens* = 「知恵のある人」という意味）として有名です。

学名は、生物の特徴や発見された場所からつけられることが一般的ですが、今回は、研究者や発見者の熱い思いが溢れ出してしまっているユニークな学名をご紹介します。

【学名のルール】

学名の命名には一定の規則があります。ラテン語の使用が義務付けられており、一般的に属名（分類上近縁なもの）と種小名（その種固有なもの）の二つの単語の組み合わせで成立しています。

学名にはそれぞれ意味があり、例えば、カブトムシの学名 *Trypoxylus dichotomus* には、「二股に分かれた角を持つ木に生息する生物」という意味が、ニホンアマガエル（*Dryophytes japonicus*）など日本で発見された種や、日本に生息・生育する種の多くには、種小名に「*japonicus*」が与えられています。また、旧人類であるネアンデルタール人の学名 *Homo neanderthalensis* を見ると、私たち人類と「属」が同じであるため近縁な生物ですが、種小名が異なるので別種であることが分かります。

【ユニークな学名が与えられた生物たち】

ここでは、一般的な学名の命名とは一線を画すユニークな学名の生物 5 種を紹介します！

Chaetoderma shenloong
(貝殻をもたない貝の仲間)

南シナ海の特殊な海域（メタン湧出域）で発見され、2024 年に新種として発表された、見た目はミミズに似た貝の仲間です。

種小名は、漫画「ドラゴンボール」に登場する“神龍”にちなんで命名されました。これは、同年に亡くなったドラゴンボールの作者、鳥山明氏への追悼の意味が込められているそうです。

命名者の熱い思いに、同じドラゴンボールファンとして込み上げるものを感じました。

Proceratium google
(昆虫のアリの仲間)

アフリカ南東部のマダガスカルに生息し、2005 年に新種として発表されました。

命名者がアリの世界分布マップの作成で困っていたところ、同時期に世界公開された Google Earth の有用性に感激し、Google 社への敬意と今後の活躍を願って、種小名を *google* と命名したそうです。いろいろと壮大な学名です。

Leptanilla voldemort
(昆虫のアリの仲間)

オーストラリアに生息し、2024 年に新種として発表されました。

細身で青白く、暗闇の中で成長するといった本種の外見や生態が、ハリー・ポッターシリーズのヴォルデモート卿にそっくりだ！ということで、種小名は *voldemort* と命名されました。

因みに、タイに生息する *Ampulex dementor* というハチの仲間もハリー・ポッターシリーズ由来の学名を持ち、こちらは魔法生物ディメンターから命名されました。

みんなハリー・ポッター大好きですね！

Diolcogaster ichiroi
(昆虫のハチの仲間)

アメリカのフロリダ州に生息し、2018 年に新種として発表されました。

命名者は元 MLB 選手のイチローの大ファンであったため、種小名を *ichiroi* と命名しましたが、本種の新種発表のための論文を執筆中（2017 年末期）に、イチローがフロリダのチーム「マイアミ・マーリンズ」を離れることとなったため、彼への熱い応援メッセージが論文中に記述されています。

Lathrobium motonari
(昆虫のハネカクシの仲間)

2023 年 11 月、広島県（中国放送）のテレビ番組「元就（もとなり）。」のロケ中に、お笑いコンビ「アンガールズ」の山根良顕さん達が発見したハネカクシという昆虫の仲間です。

山根さん本人の希望で、テレビ番組名に因んだ種小名 *motonari* が命名されました。同じ立場なら、発見者として自分の名前を献名してもらうのに、と思った私は強欲でしょうか。

日本に生息する生物なので、和名にも「モトナリヒメコバナナガハネカクシ」と、番組名がつけられています。

様々な生物の学名に、研究者や発見者の熱い思いが込められており、時にはその思いが強すぎて、私たちからみると非常にユニークな学名の生物がいることに、ある意味感動を覚えました。

本記事は、昆虫類のほか、様々な動物を専門とする甲斐（かい）が担当しました。

環境部の主な業務内容(R6 年度)

R6. 8 時点での主な業務内容は、以下のとおりとなっています。

官公庁事業関連(国内)		官公庁事業関連(国外)	
国交省	遠賀川水系水辺現地調査(底生動物)業務 遠賀川水系自然再生事業モニタリング調査業務 遠賀川水系環境調査及び利活用検討業務 竜門ダム河川水辺の国勢調査(鳥類・利用実態)業務 緑川ダム水辺現地調査(底生動物等)業務 環境調査(陸上昆虫類外)標本保管管理 山国川水系河川水辺の国勢調査(底生動物)業務 山国川水系流域治水検討業務 大野川一ノ洲地区環境調査業務 大淀川・小丸川河川水辺環境調査(植物外)業務 宮崎海岸モニタリング環境調査・分析検討業務 松原・下笠ダムフォローアップ評価検討業務	JICA	ケニア国地熱発電事業における蒸気供給管理能力向上プロジェクト ケニア国オルカリヤV地熱発電開発事業実施促進支援業務 インドネシア国国有地熱発電事業者の新規開発地点に関する情報収集・確認調査
		PT.PLN	インドネシア国ウルンブ・マタロコ地熱発電プロジェクト業務
		民間事業関連	
		環境調査 予測評価 対策検討	ダム水質や通砂事業に伴う環境調査・解析、魚類遡上調査、地下水分析検討、発電所工事に伴う騒音予測、海底底質調査 など
		環境 影響 評価	洋上・陸上風力発電所新設に係る環境影響評価、火力発電所リブレースに係る環境影響評価、火力発電所建設に係る植物保全業務 など
福岡県	西川河川環境調査及び施工計画検討業務委託 国道322号香春大任バイパス水文調査業務委託	自主	送電線工事に伴う希少植物調査、地熱開発に係る動植物調査 など
長崎県	浦上ダム建設工事(環境調査業務委託)		
熊本県	有明海特産魚介類生息環境調査(浮遊幼生等調査)		
佐賀県 基山町	環境基本計画及び一般廃棄物処理基本計画見直し業務委託		
熊本県 苓北町	地域再生エネ目標及び地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定支援業務		
鹿児島県 和泊町	再エネ導入促進エリア検討事業		

ヤマドリについて

右の短歌は、長い秋の夜を一人で眠る寂しさをヤマドリの特徴に例えて詠ったもので、百人一首のほか、万葉集や拾遺和歌集にも収録されています。

このように、ヤマドリは古くから親しまれている鳥ですが、普段なかなか見ることができません。そんなヤマドリについて、今回ご紹介したいと思います。

柿本人麻呂
あしびきの
山鳥の尾の
しだり尾の
長し夜を
ひとりかも寝む

ヤマドリ



【ヤマドリとは】

ヤマドリは日本固有種で、日本の国鳥キジの仲間です。

短歌に詠われるとおり、ヤマドリの雄の尾は垂れ下がるほど長く、全長(体+尾)約125cmのうち尾は95cmほどと実に体の約3倍の長さがあります。

雄は全身が赤銅色で非常に美しく、雌は全身が黒褐色で、共に白色の斑紋が網目模様を成し、林内の木漏れ日に紛れる保護色となっています。

ヤマドリも近縁のキジも、ある程度の距離は飛ぶこともできますが、主に地上で生活するニワトリのような鳥類です。

キジは林縁部に面した草原・農耕地といった開放的環境を好むのに対し、ヤマドリは森林内の閉鎖的環境に生息します。このため、ヤマドリは普段、なかなか見ることができません。

同じ仲間でも、見た目は全く異なりますね。

キジ



【ヤマドリの攻撃性】

キジは「桃太郎の鬼退治」に同行した子分として有名で、お話のとおり非常に攻撃性が強い鳥です。郵便配達の方が、配達中にキジの縄張りに入ってしまう、飛びかかれ、クチバシでつかれたり、蹴りかかれたりしたニュースを聞くこともあります。そして、ヤマドリもキジ同様、繁殖期の攻撃性は危険です。

私も林道を車で走行中、ヤマドリの縄張りに入ってしまった経験があります。その際は、ヤマドリの何倍もの大きさがある車へいきなり飛びかかれ、クチバシでつかれたり、蹴りかかれたりしました。

ヤマドリに遭遇することは少ないため、千載一遇のチャンスを逃すものかと、車外での写真撮影を試みましたが、ヤマドリのあまりの剣幕にたじろぎ、撮影を諦め、泣く泣く車内に退散しました・・・。

彼らの縄張り内では、おそらく雌が抱卵中か子育て中。家族を必死に守るための所業なのでしょう。でも、こちらは敵意のない単なる通行人。何もしないから襲わないで通して欲しいものです(涙)。

彼らの繁殖期である春から初夏にかけて山道を走行する際は、知らずに縄張りに入ってしまうと襲われるかもしれませんので、くれぐれもご注意を！

古くから短歌にも詠われているヤマドリ。出会える機会は少ないですが、出会った場合は注意が必要ということを、実体験をもとに、鳥類専門の渡邊(わたなべ)が解説しました。